

県の適応策の取組事例②

漁業者みずからワカメ種苗をつくる

ワカメの養殖

- 県の重要特産物で、淡路の丸山地区で県内の約8割を養殖
- 生産量全国第4位(平成26年度)
- ◎ワカメの種苗を県外から購入していたが、夏場から秋口の水温が高くなったことで種苗生産が不安定となり、確保が困難



ワカメの養殖の様子

簡便かつ実用的な「大型水槽におけるワカメ種苗生産技術」の開発(平成27年)

- 従来の精密作業を、マイクロピペットやピンセットを使用した簡便な方法に改良
- 平容器を用いて、効率的にタネ糸散布・着生できる方法を開発
- エアコンと蛍光灯を用いて水温と光条件を管理
- ハリ養殖の海水作成方法を導入し、大型水槽での培養を可能に



大型水槽での培養

漁業者みずからワカメ種苗をつくる(普及啓発)

- 開発した技術を漁業者みずからが取り組めるよう、南あわじ漁業協同組合のワカメ養殖漁業者を対象に研修会を開催し、現場指導を実施
- 漁協は、県民局の助成を受けて顕微鏡と培養庫を導入し、生産者みずからが改装した漁具倉庫で種苗生産を開始(平成28年)
- 金融機関からも資金援助を受け、培養庫の増設と種苗設備を拡充(平成29年)



県水産技術センターでの研修会の様子



現場での種苗生産の様子

成果

- 生産開始1年目で、種苗の約3割を自家生産
- 技術を応用し、配偶体をいろいろ組み合わせて、オリジナル品種を開発
- 他地域では真似できないブランド力と生産力の強化を実現



色と肉厚があるオリジナル品種